

# トータルケアNEWS

号外 2005.12.1

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会  
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5  
TEL 018-864-2711 FAX 018-864-2701  
URL <http://www.akitakenshakyō.or.jp/>  
E-mail [chiiki@akitakenshakyō.or.jp](mailto:chiiki@akitakenshakyō.or.jp)

## CONTENTS

【研修報告】  
浦添に学ぶトータルケア  
の進め方  
～第11回地域福祉実践研究  
セミナーに参加して～

## 浦添に学ぶトータルケアの進め方 ～第11回地域福祉実践研究セミナーに参加して～

秋田県社会福祉協議会  
常務理事兼事務局長 吉田慶嗣

### 1 はじめに

去る9月1日～3日、沖縄県浦添市で、日本地域福祉研究所（理事長・大橋謙策日本社会事業大学学長）浦添市、浦添社会福祉協議会の主催による第11回地域福祉実践研究セミナーが開催された。

このセミナーは、これまでも地域福祉を先駆的に実施している都市を開催地に行われており、今年度は那覇市の北隣、浦添市で開催された。

浦添市（人口約10,7000人）は、平成16年3月に行政計画として「てだこ（太陽の子）結（ゆい）プラン」（浦添市地域福祉計画）を策定しているが、全国の市町村の計画の中で、コミュニティソーシャルワークを事業名として明確に位置づけているのは、ここが最初といわれ、また、浦添市社協では、同行政計画をより具体的に推進するため、今年3月に福祉、保健、医療、教育等の連携並びに住民参画による「てだこハートフルプラン」（浦添市地域福祉活動計画）を策定している。そして、現在、その計画に基づいて、市内5中学校区を在宅福祉サービスエリアとし、コミュニティソーシャルワーカーを配置して、コミュニティソーシャルワーク実践を中核とした活動実践段階に入っている。その浦添市の実践をフィールドにして、セミナーが開催されたのである。

セミナーでは、浦添市が「ハートが通い合う、元氣なてだこの都市（まち）」になれることを期待し、実践レベルに入っているコミュニティソーシャルワークの現状と課題を整理するとともに、地域住民一人ひとりが参加する地域福祉実践方法やその推進システムについて考え、また、地域福祉実践者及び研究者の資質向上を目的として、シンポジウム及びワークショップなどの方式による研修事業が企画されたものである。シンポジウム及びワークショップなどには、日本地域福祉研究所の主要メンバーが総参加で、

現在の日本の地域福祉の最先端を学ぶ絶好の機会となった。

私が参加したワークショップでは、各出席者の所属を明らかにしたが、中に一人、名古屋から出席した「その他」の方がおられた。尋ねると、かつて大学で地域福祉を学んだが、現在は家庭に引きこもっている。しかし、年に一度だけこのセミナーに参加し、地域福祉がまた更に進んだということを知り、感動を覚えて帰るのだということを知ってくれた。このように、参加した者だけが得られる地域福祉実践の最先端を知る快感を一人でも多くの秋田県内の社協職員に覚えてほしいと思った。秋田からの参加者は、美郷町社協の渋谷真弓さんと県社協の高橋清好地域福祉課長、それに私の3人であった。



歓迎のことは（儀間浦添市長・開会式）

セミナー1日目のプログラムでは今日の地域福祉について、儀間光男浦添市長、山内英樹市医師会会長、日本地域福祉研究所理事長大橋謙策氏による鼎談、午後には浦添市、富山県氷見市、長野県茅野市の社会福祉協議会職員によるシンポジウムが開催された。

2、3日目は7つのテーマに沿ってワークショップが開催された。

今回のセミナーでは、浦添市のこれからの地域福祉推進についてさまざまな角度から方向性が示された。現在、浦添市では5つの在宅福祉サービスエリア（福祉圏域）に分けて必要な拠点を整備し、そこに2名のコミュニティソーシャルワーカーを配置していくという計画を具体的に進めている。

私は、セミナーに次の2点について期待して臨んだ。1点目は、我々のトータルケアを円滑に進めるため地域福祉先進各地の具体的な手法を学ぶこと、2点目は、浦添市社協職員全員がいかに一致団結して、コミュニティソーシャルワーク実践を中核とした活動実践段階に入っていったかについてである。特に後者については、地域住民のニーズをどのように掘り起こし、それにどうアプローチしていくのか、苦悩し、手探りをしながら進んでいく実態を知りたいと思った。限られた日程ではあったが、セミナーを通じ、また、公開されている資料から、我々のトータルケア推進に役立つ事柄について報告したい。

## 2 ワークショップに参加して

ワークショップは少人数で丸一日、浦添市社協の抱える具体的な困難ケースの検討に終始した。私は、ワークショップ5『保健・医療・福祉の連携と地域福祉の推進』に参

加した。浦添市では、平成14年からメディカルインフォメーションセンター事業を中心に、地域医療、ホームドクター制度などへ積極的に取り組むとともに、中学校区を意識した活動を先駆的に実践している。特に、メディカルインフォメーションセンター事業は浦添市と浦添市医師会の協働で行う公的相談支援機関として全国に先駆けている。ワークショップでは、幅広い領域から意見が飛び交った。発言の少ない参加者には檄が飛ばされるなど課題解決のため厳しい錬磨が続けられた。アドバイザーである埼玉県立大学野川、本田両教授による高いレベルのコメントで脳裏に新風が吹き渡った感じがし、終了したときには疲労困ぱいしたが、また爽やかな達成感も覚えた。いずれのワークショップでも浦添の生のケースが俎上に上り、まさに実践研究セミナーのメイン・プログラムであった。



ワークショップ「保健・医療・福祉の連携と地域福祉の推進」

次に、当日の各ワークショップのテーマを掲げる。

- 『中学校区における子育て支援～地域で見守り、育てる～』
- 『こどもの学びとコミュニティづくり』
- 『地域における総合的な支援のためのネットワーク形成』
- 『コミュニティソーシャルワークが展開できるシステム』
- 『保健・医療・福祉の連携と地域福祉の推進』
- 『社会参加とコミュニティソーシャルワークの展開』
- 『福祉NPOとの連携とコミュニティビジネス』

これらの7つのテーマは、地域福祉の課題整理の論点とも読み取れる。県内各市町村社協の現状に置換して考えていただきたい。トータルケアには、オリジナルな手法を期待したいが、先行する地域の手法を取り入れるのも効果的である。

### 3 浦添市（行政）との緊密な連携

浦添市では、従来から福祉・保健・医療の連携が進められ、福祉教育などにも積極的に取り組んできた地域といわれる。今回の地域福祉計画策定を機に、これまで以上に住民参加を丁寧に行ってきたといわれるが、その一例として、昨年、計画策定の段階で、地域福祉の今後のありかたについて理解と関心を高め、市民参加による地域福祉を推進していくために、記念講演会と地域福祉シンポジウムを開催している。浦添市、浦添市社協、共催事業で、「これからは地域住民がお互いを支えあい、助け合っていく社会が望まれています。この機会に、ご自分が住むまちの福祉などについて、いろいろと一緒に考えてみませんか？」と呼びかけ、「浦添市における新たな戦略としての地域福祉を考える」をテーマに大橋謙策氏の基調講演『21世紀の新たな社会システムづくりと地域福祉の推進』、それに地域福祉シンポジウム『浦添市における新たな戦略としての地域福祉を考える』を開催している。また、日ごろ市福祉担当課長による研修を行うなど、浦添市と浦添市社協は緊密な連携にあることが窺われた。

我々がトータルケア推進事業を進めるにあたって、市町村（行政）と一体となった取り組みが一層求められるし、今一度、行政側にトータルケア事業の必要性を力説して協力を依頼すること、また当面、地域包括支援センター受託に関しても早急な協議を行う必要がある。

### 4 浦添市地域福祉計画策定と職員の共通理解

#### (1)地域福祉活動計画の特徴

第三次浦添市地域福祉活動計画は、コミュニティソーシャルワークの推進をテーマにしており、その計画の柱は、

- 安心生活サポート仕組みづくり（安心して暮らせる地域づくり）
- 権利擁護の仕組みづくり（福祉サービス利用の安心確保）
- 住民ぐるみのまちづくり（福祉文化で地域づくり）
- 信頼される社協づくり（社協の基盤・機能の強化）である。

また、その特徴は中学校区別活動で、

- コミュニティソーシャルワーク事業の推進（5中学校区）
- 住民が参加しやすい社協組織づくり
- 地域福祉活動推進基盤の確立である。

この計画に関わった住民は、地域懇談会、各部会への参画、ボランティア団体・福祉団体、ふれあいのまちづくり推進委員会のメンバーで実に828名に上った。

#### 浦添市地域福祉活動計画策定の推進体制

策定委員会（15名）

- ・ 専門委員会代表、関係機関・団体の代表者、行政部長クラス

専門委員会（16名）

- ・ 7部会代表、学校代表、行政課長クラスで構成

7専門部会（99名）

- ・ 障害児・者部会（15名）
- ・ 高齢者部会（14名）

- ・ 児童青少年部会（14名）
- ・ ボランティア、NPO部会（14名）
- ・ 子育て部会（12名）
- ・ 子ども部会（15名）
- ・ てい<sup>ま</sup>だ<sup>ち</sup>都市づくり部会（15名）
- ・ ふれあいのまちづくり推進部会（自治会長36名）
- 作業部会（プロジェクトチームの構成員）
- ・ 社協職員で構成

私が注目したのは、計画書答申までの段階における社協職員の共通理解と計画への参画体制づくりと情報収集の取り組みについてである。

すなわち、浦添市社協職員が、住民のニーズ把握の手法などをどのようにして学んだかを知りたいと思った。そのプロセスを知ることがトータルケアの成功につながると考えたからである。

## (2)職員の共通理解と参画体制づくり

計画書が出来上がってみれば、社協職員がいかにして地域福祉活動実践への意識を高めていったか、また計画づくりにどう関わったかは明らかではない。しかし、断片的ではあるが資料から、次のような取り組み事例を知ることができる。なお、この事例は、浦添市社協の地域福祉活動計画の策定にあたっての対応であるが、トータルケアに取り組むにあたって、社協職員の共通理解と実践への体制づくりに極めて有効な手法であると考える。

トータルケアに取り組み始めたものの、未だ職員全員の共通理解が十分に得られていない市町村社協にあっては意識啓発の目的に、また来年度トータルケアに取り組む市町村社協にあっては、ぜひこの手法（後述の事例1～3の演習）を取り入れ、地域福祉に関して高い意識レベルでトータルケアに取り組んでいただきたいと思います。

### 事例1

#### 浦添市社会福祉協議会職員研修会実施要項（要旨）

##### 1 目的

地域福祉活動計画の策定には職員一人ひとりの参画が求められる。社協職員としての意識の向上と活動計画づくりにつなげていくことを目的に開催する。

##### 2 日時

平成15年6月30日（月）午後6時30分～午後10時

##### 3 場所

浦添市社会福祉協議会（センター）

##### 4 内容

講話：浦添市地域福祉活動計画に向けて

ワークショップ

「浦添市地域福祉活動計画に向けて あなたの考える浦添市社協！」

## 5 対象

浦添市社協職員全員（正規職員、嘱託職員、臨時職員） 59名

## 6 時間配分

18:30 開会

18:40 講話

19:00 ワークショップ開始

アイスブレイク：1分自己紹介、進行役を決める

ワーク1（60分）

- ・社協で仕事をしていて困ったこと、嫌だったこと ブルーのポストイット
- ・社協で仕事をしていて良かったこと、嬉しかったこと ピンクのポストイット

ポストイットに記入（10分）

ポストイットへは簡潔に1項目ずつ記入

発表（10分）各自発表しながらポストイットを提示

分類（25分）分類された集まりに題名を付ける

グループ発表（10分）2グループ

20:20 ワーク2（60分）

項目選択 ワーク1の結果からそれぞれの項目で3つを選択（5分）

ポストイットに記入

良かったこと、嬉しかったことはもっとよくするために。困ったこと、嫌だったことはよくするために。どうすればいいか、どういふことが必要かポストイットに記入する。（10分）

話し合い

それぞれのポストイットを提示し、改善の方法を検討し、その結果、どういふ風に良くなったかを示す。（25分）

発表（20分）

21:20 まとめ

21:45 感想アンケート記入

22:00 閉会

グループは全体で6グループを結成。その内の1グループで出された事柄は次のとおりである。

### 【ワーク1で出された事柄】

困ったこと・嫌だったこと

事業が多い

- ・決裁文書が多い

時間がない

- ・急ぎの文書が多い

- ・じっくり話ができないこと

- ・やりたいことがいっぱいありすぎて時間がない

- ・ワープロは上手になりたいけれど、打つ時間がなく、たまにやるとミスばかり。

- ・子ども、母親の一人ひとりにもっと関わってあげたいのに、なかなかできない。

勉強不足

- ・研修会に参加しているが、研修内容が理解できない

- ・事業の内容を聞かれてもうまく答えられなかった
- ・福祉関係の勉強をせずに社協に入ったので、専門用語が分からなかった
- ・データが整理されていない

#### 団体からの不満

- ・団体から補助金を増やしてほしいといわれている
- ・団体から補助金について不満がある

#### 異動が多い

- ・異動が多く仕事を覚えて慣れてきて、次にやりたいと思うことができなかった
- ・職員がよく変わるねと利用者から言われたとき
- ・部署内の異動する割合が高い

#### 失敗

- ・発注ミスで他の人に迷惑をかけてしまったとき
- ・配達に行き忘れて物をしてしまったとき

#### 良かったこと・嬉しかったこと

##### 生きがい（やりがい）

- ・仕事は自分に合っている最高
- ・今の仕事は私にとっても良いところだと思っている。私も成長していけそう
- ・社協事業のことはよく知らなかったけど、少しずつ分かってきたように思う
- ・社協事業が少しずつ分かってきて、人にアドバイスしてあげることができた
- ・自分の趣味（手話）が増えた
- ・大変な分、ゆっくりだがやった分が返ってくるのでやりがいがある

##### かわり

- ・たくさんの人々との関わりがある
- ・たくさんのボランティアの方々を知ることができた
- ・自分の住む地域の人と仲良くなれた

##### 親切

- ・みんな親切であること

##### うれしい

- ・子どもはかわいい
- ・子どもたちの成長の発達が見られて嬉しい

##### 頑張っているぞー

- ・たくさんの事業をよくこなしていること
- ・仕事に意欲的であること
- ・若い職員が多く、元気であること

##### 喜び

- ・ボランティアさんが他県に引っ越しするときにあいさつに来てくれた
- ・気になっていた子どもがたんぽぽ園に来てくれてうれしい
- ・利用者の方から声をかけられた（スーパーで見かけて）



## 【ワーク2「こんな社協になったらいいな〜」ミニミニ計画づくり】

### 困ったこと・嫌なこと

#### 時間がない **改善の方向**

- ・事務処理を簡単に（事務改善）
- ・職員の配置
- ・チームワークをもっと深める
- ・事業のスリム化
- ・整理をする、書類関係を簡単に
- ・業務量に見合う職員配置
- ・異動を少なくする

どう良くなったか

⇒ 経費削減・専門性を深める

#### 勉強不足 **改善の方向**

- ・研修の機会を多くする
- ・受けた研修の受講（研修費UP）
- ・資格に挑戦、専門知識の習得
- ・興味のあることから勉強していく
- ・他事業との勉強会（社協事業理解）
- ・事業のマニュアル化

どう良くなったか

⇒ サービスの質向上、職員の自信・自覚

### 良かったこと・うれしかったこと

#### いきがい **もっと良くするために**

- ・自分自身が積極的に取り組む
- ・職員の意識の向上
- ・本人が仕事を楽しくするように
- ・利用者を増やす
- ・よいサービスを提供する
- ・幅広いボランティア活動
- ・技術を学ぶ、達成感

どう良くなったか

⇒ サービスの質の向上、利用者の増加

#### 関わり **もっと良くするために**

- ・相手を認める
- ・場所、人を増やす
- ・公民館、児童館、子ども達、保育園、小・中学生
- ・笑顔であいさつ（声かけ）
- ・積極的に声かけする（目配り、気配り）
- ・気軽な声かけ、あいさつ

どう良くなったか

⇒ 地域の活性化



## 事例 2

### 平成15年度地域福祉活動計画策定研修会実施要綱（要旨）

#### 1 目的

浦添市地域福祉活動計画策定に向けて、社協職員として共通理解と活動計画づくりにつなげていくことを目的に研修会を開催する。

#### 2 期日

平成15年7月26日（土） 27日（日）

#### 3 場所

浦添市社会福祉協議会（センター）

#### 4 浦添市社協全職員

#### 5 講師

原田正樹氏（東京国際大学助教授）

テーマ「地域福祉実践と地域福祉活動計画」

#### 6 日程

##### 第1日

7月26日（土）

13:00～18:00 講義及び技法

対象：役員、課長、係長

##### 第2日

7月27日（日）

9:00～12:00 講義及びワークショップ

対象：課長、係長、他正規職員

13:00～18:00

浦添市地域福祉計画の概要（1時間） 浦添市健康増進課長

講義及びワークショップ（4時間） 原田正樹氏

#### 第2日途中経過の記録 7月27日（日）9:00～12:00

対象（課長、係長、他正規職員、総務課）

住民座談会について

・今回の計画は社協のメンバーだけで作成する計画ではなく、住民参加を求めないといけない

・住民へのアプローチをどうしていくか

・社協をどう伝えるか、住民に伝えるメッセージをしっかりと持たないといけない

・社協を住民の方たちに説明するときどういう方法で説明するか統一した説明の仕方を考えていく必要がある

参加型住民座談会

住民座談会で浦添市社協を知ってもらい社協と住民の信頼関係を築くことが大切

・説明会にしないこと

・一問一答にしないこと

・住民相互の話し合いにする

- ・次回への期待につなげること
- ワークショップ  
 (ロールプレイ) 住民座談会を想定して社協の説明をしてください  
 A地区 初めての座談会 18:30~20:30  
 社協役、住民役、観察役を決める  
 プログラム  
 あいさつ、開催趣旨、社協説明、懇談

## ロールプレイを終えての反省点

### (1回目)

- ・すべてを受け止めるのではなく、住民にもっと投げかけること
- ・話さない人へはこちらから話しかける
- ・様々なサービスの説明ができるようにしたい
- ・社協の場所の説明はした方がよい
- ・名前で呼びかけると親しみを感じる
- ・相手に参加できるきっかけを作ってあげる
- ・住民の前ではメリハリをつけて説明する
- ・住民の声に答えられるようにしたい
- ・自分がやっていることに対する説明はできても、やっていないことに対して十分な説明ができなかった
- ・役割の分担、スタッフの打ち合わせを十分にしていかななくてはいけない
- ・トータルでいろいろな質問が来たときに答えられるかどうか。限られた時間の中でいかに説明をして、答えられるものについては答え、そうでないものに対してはどのように対応するかをお互いに確認しておく必要がある。その場で答えられないものについては「次回に調べて答えます」と、その時に安心感をもってもらうようにすることが大切

### (2回目)

- ・知っている人への声かけをすることで安心感を与える
- ・趣旨説明も1回目の反省を受けて、長い説明ではなかったけれど良かった
- ・地域懇談会の趣旨など、どういう意味で懇談会をするのかをしっかりと抑える
- ・社協の範囲を超える場合があるので(行政のサービス等)勉強する必要がある
- ・丁寧に関わること、気遣いをすることが大切
- ・腰を折らない、途中で腰を折られるとストレスになる
- ・住民を評価すること、感謝の気持ちを示す
- ・謝罪するだけでなく、次の話題につなげる
- ・社協が作るのではなく、一緒になって作るということを説明し課題を引き出していく
- ・どういう風にやったら声を出せるのか皆で考える(シート、プリントなどいろいろな方法がある)
- ・すぐ何かありますかではなく、お互いに知る場にすることも大切
- ・地域福祉がどんなことなのか、懇談会がどのようにつながるのか、どんな役割

- があるのか、次にあるのかということが見えた方がよい
- ・話しやすい雰囲気づくりが大切
- ・1回きりでなく何回か出向いて生の声を聞いていった方がよい
- ・苦情に対してとか、どのあたりで線を引くか「次に進めましょうね」とか、つなぎをしっかりとる
- ・自治会長との事前打ち合わせが必要

### ロールプレイのまとめ

事前準備 懇談会を持つ前の資料づくり（地域ごとのデータ、住民への資料）  
 姿勢 進行のスキルをどのように進めていくか、（対人援助）日ごろの対応が出てくる。社協の職員が嫌々やっていたらすぐに見破られてしまう。  
 どれだけ誠意を見せられるか。  
 内容・ねらい。ニーズだけを聞くのか。ポジティブな部分から聞いていく。  
 各地域にどうやって入っていくのか

### 座談会に向けての共通認識

- ⇒ ・社協を信頼していただく
- ・自分たちのまちづくりを自分たちでやってみようと言う気持ちになるような懇談会になるとよい

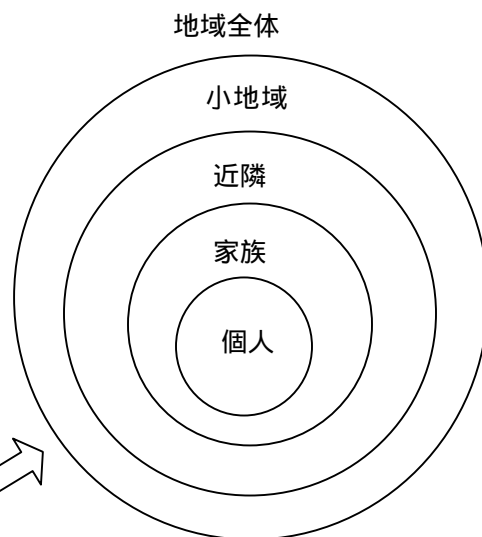
第2日午後の記録：7月27日（日）13:00～18:00

対象（全職員）

- これからの地域福祉
- ・コミュニティワーク  
個人を取り巻く地域組織化  
ネットワークを作ったりシステムを作る
- ・コミュニティソーシャルワーク  
個人を地域全体で支えていく  
インフォーマルサービスをどうつなげていくか

↓  
個人を支えていくことから始まる

地域自立生活支援の広がり



社協マンとして

一人ひとりが社協職員としての自覚、アイデンティティ、誇りがあるかどうか  
 地域の方々に自分の言葉で浦添市社協の説明ができるかどうか  
 「福祉って何？」と聞かれたときに説明できるか、専門性をどれだけ持てるか  
 5年後、どんな仕事をしていきたいか。社協という組織の中でどんな仕事をしていきたいか  
 5年後、どんな浦添市にしていきたいと思っているか、どんな社協にしていきたいか

社協に求められるのは、サービスを提供できるだけでなく、いかに専門性を出していくか、80名の職員が気持ちを共有していくことが大切

社協が見る地域福祉のニーズ

- ・グループに分かれていま自分が仕事の中で感じている課題を書いてあげてください。
- ・それをグループの人たちに説明してください。
- ・そして、その課題を次の表（下の表）に分類してください。

社協が見る地域福祉のニーズ	グループ名		
	社協	社協と行政	社協と市民
1層（広域社会）			
2層（浦添市全域）			
3層（中学校区）			
4層（自治会・近隣・個人）			

私たちの提案

- ・大判の紙半分に で出た課題の中からグループごとに提案したい検討課題を選んで書いてください。
- ・グループから一人出て発表する。
  - 1グループ
    - 障害者に対するサービスの提供（デイサービスなど）
    - 相談業務の強化
    - 児童生徒に対する福祉教育の強化
  - 2グループ
    - 待機児童の解消
    - 誰でも加入できる自治会
    - 知的障害者の自立支援
    - 介護者への支援
    - 身障者及び高齢者外出支援
  - 3グループ
    - リフトバス延長時間の検討
    - 配食サービスの回数の検討
    - 公共施設の土・日開所
    - 利用施設の延長
    - 母子・父子サービスの性差をなくす
    - 地域の見守り体制の確立
    - 障害者の就学問題の解消
    - 社協職員の質（専門性）の向上
    - 相談窓口の充実

#### 4 グループ

地域のネットワークづくり（見守り）  
保健・医療・福祉のネットワーク（総合相談窓口）  
人材育成（福祉教育）ボランティア、ヘルパー講座  
情報提供の在り方  
高齢者の生きがいづくり  
受託事業の在り方  
社協会員制度の在り方

### 事例 3

#### 浦添市地域福祉活動計画職員研修会（要旨）

##### 1 目的

社協職員が地域懇談会から住民の声を聞き、傾向・テーマ別に課題整理する作業を行うグループワークを通じて、住民の声を身近に感じるとともに、地域福祉活動計画策定作業に関わる機会とすることで、住民主体の計画づくりを共有することを目的に開催する。

##### 2 期日

平成15年7月26日（土） 27日（日）

##### 3 場所

浦添市社会福祉協議会（センター）

##### 4 日程

###### (1) 講話

日本福祉大学助教授 原田正樹氏

「地域福祉活動計画について」

###### (2) グループワーク（7～8名×4グループ）

内容：地域懇談会で出た声を専門部会の報告テーマ「情報」「地域活動」「福祉教育」「その他」に分類する。

地域懇談会からの声をポストイットに転記し、模造紙に同様の傾向別にグループ分けして貼り付ける。

それぞれに題名をつける。

つめた題名を、専門部会からの報告テーマ「情報」「地域活動」「福祉教育」「その他」に分ける。

課題ごとに推進にあたっての役割を推進役（行政、社協、地域、団体）別に（活動の中心、活動への参加、活動への協力、活動への支援）のマークづけをする。

グループワーク終了

###### (3) まとめと助言 原田先生から

## 5 終わりに

浦添市社協では、前述の事例 1～3 の研修に全職員があげて取り組んだからこそ、現在のコミュニティソーシャルワークの推進をテーマにした地域福祉活動の実践が円滑に行われ、その評価を得て今回の地域福祉実践研究セミナーが開催されたのだと思う。

我々が今年度から取り組み始めたトータルケアについても、コミュニティソーシャルワークを基軸とした展開が前提であるとの発想については、浦添市社協と全く同種のものである。

極めて深刻な福祉課題を抱える本県にあって、トータルケア推進事業は今後の秋田の地域福祉の命運を賭けた重要なプロジェクトである。そのためには、県社協はじめ各市町村社協において、コミュニティソーシャルワーカーの研修を受けた者だけが任を担うのではなく、社協あげて地域福祉についての意識啓発を行い、全職員の共通理解と参画体制が前提となる。そのためにも、ぜひ事例 1～3 の研修に取り組んでいただきたい。

遙か沖縄・浦添の街で、地域福祉実践研究セミナーに参加し、トータルケアの先行きと取り組みのための社協全職員の意識啓発の必要性をしみじみと感じた次第である。